〈研究ノート〉

エコノミクス
第12巻第4号
2008年3月

George Peabody(1795-1869)に関するノート

岡村東洋光

Ⅰ．人物紹介

ジョージ・ピーボディーといえば，わが国では，米英（大西洋）を股にかけて活躍したマーチャント・バンカーとして，今日まで続いている世界有数の金融サービス会社 J. P. モルガン商会[1]とのつながりにおいて言及される，立志伝中の人物である。他方で，彼が「慈善事業家」という顔をもち，アメリカではカーネギーらにチャリティの哲学を教えた「近代フィランスロピーの父」と呼ばれている面は，案外知られていない。本ノートは，彼のフィランスロピー活動の全体像と歴史的な意義を明らかにするための準備作業として，現在，利用可能な資料について整理を試みたものである。

マーチャント・バンカーとしての活躍ぶりを簡単に紹介しておこう。ピーボディーは，1795年マサチューセッツ州サウス・ダンバーズに生まれた。父親は当地で盛んであった皮革工場の労働者であったから，家族の生活は質素であった。家庭の事情で学校にはわずか4年しか行かず，11歳で近くの雑貨屋に奉公に出された。これが彼の事業における出発点であり，この時代に，会計，顧客サービス，マーケティングといった領域の重要なスキルを学んだ。

15歳の時，親方から独立しビジネスを始めたが，やがて1812年米英戦争にボランティアとして参加した際に知り合った Erisha Riggs の資金援助を得て，彼とともに乾物問屋 Peabody & Riggs を立ち上げた。この事業で成功した

後，ピーボディーはパートナーのリッグスを説き伏せ，彼らの会社を1816年にボルティモアへ移した。以後，20年間，ここが事業の拠点となった。彼らは古い集会所の一角に引越し，企業ビジネスに銀行サービスを付加した。彼らの銀行の冒険的事業は，たちまち大きな利潤の源泉となった。1822年までにフィラデルフィアとニューヨークに支店が作られた。彼は1827年に英国に旅をし，アメリカで売り捌くために衣料品を購入し，ランカシャーではアメリカ産綿の販売交渉をおこなった。こうして米英間の貿易と，その投資ビジネスで儲けるようになる。丁度，アメリカ経済の拡大期だったので，ビジネスの利回りがよく，高収入を得られた。特に，西部への鉄道網の拡張と間大西洋ケーブル施設への投資が知られている。彼は，たびたび訪れたロンドンを気に入り，ヴィクトリア女王の即位の年，1837年ロンドンに居を構えた。

ロンドンでは，800万ドルのメリーランド州債を売却して助けたことで名をなした。1838年にはジョージ・ピーボディー商会を設立し，マーチャント・バンカーとして成功した。アメリカ人のビジネスを積極的に支援したので，彼らの間で著名になり，信頼もされた。1851年のロンドン博覧会の際には，ピーボディーは3000ポンドの私財を投じ，アメリカ製品を宣伝した。コルトの回転式拳銃やサイラス・マコーミックの刈取り機，美しい銀板写真法といったものには，多くの見物客が集まった。やがて1854年に，ジュニアス・スペンサー・モルガンがパートナーとなった。アメリカの9百社の銀行と投資金融会社が倒産したと言われる1857年パニックの際には，「ロスチャイルド財閥の助けを得て，ロンドン政界を動かし，イギリス銀行法を改正させた」[(2)] 上で，イングランド銀行から100万ポンドの貸し出しを得，これをアメリカに送金した結果，パニックが鎮静された。愛国者の面目躍如といったところであった。

ピーボディーが引退した後，ジョージ・ピーボディー商会は1864年に改組され，J. S. モルガン商会になる。この会社は，その後，1900年にロスチャイルド一族のエドワード・グレンフェルが支配人となった。これは，今日のスーパーバンク，J. P. モルガン・チェースにつながっている。

他方，ピーボディーのフィランスロピー活動は，1851年に開催されたロンドン万国博覧会の後に始まったが，それらすべては社会改良に向けられ，特に財産に恵まれない人々に対する改善手段の提供がなされた。この時期の他

のフィランスロピックな活動と違うのは，彼の活動が宗教的なものを含まなかった点にある。彼の創設した学校は，宗派的な神学や宗派的な対立を育てるために使われることはなかった。代表的なものは，アメリカでは，1867年に南北戦争で疲弊した南部を癒すために創設された教育ファンド，Southern Education Fund と，イギリスで，1862年に創設され，ロンドンの貧民のための住宅を提供することを目指した，Peabody Donation Fund である。それらは宗教色を持たないという点で，近代フィランスロピック財団の典型であった。しかし，20世紀に至るまで，それらが広く模倣されることはなかった。彼が行ったフィランスロピー活動には別記のようなものが含まれる。(3)

1869年11月に亡くなった際に，ヴィクトリア女王はロンドンのウエストミンスター寺院に埋葬することを望んだが，ピーボディー自身の遺志を尊重し，一ヶ月の仮葬儀の後，アメリカ合衆国の生まれ故郷，マサチューセッツ州ダンバーズに葬られた。彼は大西洋を跨いで両国で敬われてきた。アメリカ人で最初のロンドンの名誉市民の栄誉に浴し，ピーボディーの銅像がロンドンのシティ，証券取引所のそばに建てられた。他方，彼の名誉を記念して，故郷の町はピーボディーという名前を冠した。

確かにピーボディーの慈善事業は，後の寄付者のもっと大きな寄付によって影が薄くなってきたが，カーネギー，ロックフェラー，そして19—20世紀の他の偉大なフィランスロピストたちの先例を作り，近代慈善活動の類型を確立したのはピーボディーであった。

彼の思想の一端は，1867年２月７日のピーボディー・インスティチュート設立の際の挨拶にみられる。その思想的特徴は，上で挙げた宗教色を持たないことの他に，①財産に恵まれない人々を援けることは，米国民の，より財産に恵まれた者にとっての義務であり，また，特権でもあるということ。この義務を果たすために100万ドルを寄付する（フィランスロピーは富者の義務)。②これはトラストで運用され，その収入は合衆国の南と南西州の貧しい若者の，知的，道徳的，工業的教育の促進と支援のために使われる（貧者の支援を機会の提供という方法でおこなう)。③自分の目的は，彼らにとって必要，かつ有用な機会の提供であり，この行為以上の栄誉はない（フィランスロピー活動はそれ自体が目的であり，５％フィランスロピーとは異なり，対

価を求めない)。以上の三点を指摘することができる。(4)

注

(1) J. P. モルガン商会に関しては，大森　実『ウォール街指令』講談社1986，およびロン・チャーナウ著，青木榮一訳『モルガン家・上／下』(Ron Chernow, 1990, The House of Morgan.) 日経ビジネス文庫2005 (初版日本経済新聞社1993)，ジョセフ・ウェッシュバーグ著，今井清孝訳『マーチャント・バンカーの内幕：国際金融を動かす主役たち』(Joseph Wechsberg, 1966, The merchant bankers.) 日本経済新聞社，1970を参照。他に，Priscilla Metcalf, 1972, Victorian London. Vincent P. Carosso; with the assistance of Rose C. Carosso, 1987, The Morgans private international bankers,1854-1913. Jean Strouse, 1999, Morgan: American financier. 等。Morgan Grenfell との関連では，Dominic Hobson, 1990, The Pride of Lucifer. Katheleen Burk, 1989, Morgan Grenfell 1938-1988. 等がある。

(2) 大森実，前掲書 p.33

(3) この二つの基金の他に，ピーボディーが晩年近くになって多くの有意義な目的のために寄付した，主たる受託先は教育施設であった。たとえば，the Peabody Institutes in *Peabody*, *Danvers*, and *Baltimore*, the Peabody Museums at *Harvard*, *Yale*, and *Salem*, Massachusetts, and the *George Peabody College for Teachers* in Nashville, Tennessee. 等があった。

(4) メリーランド州資料館 (米国) のホーム頁のジョージ・ピーボディー紹介情報参照。http://www.msa.md.gov/msa/speccol/photos/philanthropy/html/peabody.htm

II. ジョージ・ピーボディーのフィランスロピー活動に関連する文献抄録

〈書籍〉

Fox Bourne, Henry Richard. 1869, Famous London merchants.

Hanaford, Phebe A., B.B. Russell. 1870 (1875), The Life of George Peabody: containing a record of those princely acts of benevolence which entitle him to the esteem and gratitude of all friends of education (unknown binding).

Chambers, W. & R. 1896. Lord Shaftesbury and George Peabody: the story of two great public benefactors: with portraits. London: W. & R. Chambers.

Wilson, Philip Whitwell. 1926, George Peabody, Esq. ; an interpretation [S. 1]: [sn].

Elbert Hubbard, Little journeys to the homes of great business men. c1928

Chapple, William Dismore. 1933, George Peabody.

Dismore, William. 1948, George Peabody, an address.

Parker, Franklin. 1955, George Peabody (1795-1869), Founder of Modern Philanthropy. Nashville; George Peabody College for Teachers.

Currey, J.L.M. 1969, A brief sketch of George Peabody: and a history of the Peabody Education Fund through thirty years. New York: Negro Universities Press.

Parker, Franklin. foreword by Merle Curti, 1971 (1995), George Peabody: a biography. Nashville; Vanderbilt University Press.

Hidy, Muriel Emmie. 1941 (rep. 1971), George Peabody---An American in London.

Hidy, Muriel Emmie. 1978, George Peabody, Merchant and Financier 1829 -1854.

Currey, Muriel Emmie. 1979 (1995), George Peabody, merchant and financier, 1829-1854. with a new pref. New York: Arno Press.

Dillingham, George A. 1989 (rep.), The Foundation of the Peabody Tradition.

Riper, Robert Van. 2000, A Life Divided: George Peabody pivotal figure in Anglo-American finance, philanthropy and diplomacy.

Hubbard, Elbert and Hubbard, Fra Elbert. 2005, George Peabody.

Wilson, Philip Whitwell. 2007 (rep.), George Peabody, Esq.: With A Letter From The President.

Wallis, Severn Teackle. 2007, Discourse on the life and character of George Peabody.

〈資料〉

George Peabody Manuscripts, in; Essex Institute, Salem, Massachusetts.

これは，ピーボディの死後60年に亘り，Warren K. Moorehead 教授によって整理され保管されていたもので，1935年に Essex Institute に預けられた。このコレクションはかなり包括的なもので，ピーボディーは，相当内密な手紙すら破棄したがらなかったように思える。だから，コレクションは，救済を願うものや家族の手紙といった，かなり雑多なものを含む。しかし，ピーボディーの活発な事業経歴に関する研究のために適切な資料は，1829年の，乾物輸入企業，ボルティモアのピーボディー・リッグズ商会でシニアとなって以降の時期から，ロンドンで，ジョージ・ピーボディ商会に，新しいパートナー，J. S. モルガンを雇った1854年まで，全く完璧に残っている。その前後の時期の若干の資料や手紙はあるが，ほとんどを1829年から1854年の間の資料が占めている。(以上は Hidy, 1978, p.391.より)

英国では，ロンドンの Metropolitan Archives に，ピーボディー・トラストとその関連資料の大部分が保存されている。このトラストはピーボディーの寄付基金によって創設され，ロンドンの貧しい労働者のための低廉で清潔な住宅作りを行ってきており，今日では約5万人に住宅を提供している。また，近年では，ヴォランタリーな組織としての機能を発揮して，若者を中心とした空部屋不法占拠問題の解決のために，企業や政府から資金を集め，職業訓練設備を含む住宅を建て，一時的に住居を提供するとともに，職業訓練を施し，企業や社会に送り込むという「事業」に取り組んで来た実績がある。

An account of the proceedings at the dinner by Mr.George Peabody to the American connected with the great exhibition at the London Coffee House, Ludgate Hill on the 27th October, 1851.

George Peabody, the American Banker, London, England. in; Frank Leslie's Illustrated newspaper. vol. 2, October 4, 1856.

George Peabody and his munificent Gifts, in; Scientific American. vol. 16, March 23, 1867.

Wallis, S. Teackle, Discourse on the life and character of George Peabody: Delivered in the Hall of the Peabody Institute, Boltimore, February 18, 1870, and repeated, February... Delegates of Maryland, on their invitation. 1870.

Report of the centennial celebration of the birth of George Peabody; held at Peabody. Mass., Monday, February 18, 1895, Cambridge, Mass.,; Riverside Press, 1895.

George Peabody College for Teachers, The semicentennial of George Peabody College for Teachers 1875-1925: proceedings of the semicentennial celebration, February 18, 19, 20, 1925. Nashville: George Peabody College for Teachers, 1925.

George Peabody & Co. Morgan Grenfell & Co. Ltd., George Peabody & Co., J.S. Morgan & Co., Morgan Grenfell & Co., 1838-1928. 1928.

Frank P. Bachman, a survey report; Division of surveys and field studies, George Peabody College for Teachers; Nashville, Tenn.,; Public schools of Nashville, Tennessee; 1931.

Idaho Education Survey Commission, Geroge Peabody College for Teachers, Division of Survey and Field Service; Public education in Idaho: a report of the Idaho Education Survey Commission. 1946.

Morgan Grenfell & Co., Ltd., George Peabody & Co., J.S. Morgan & Co., Morgan Grenfell & Co., Morgan Grenfell & Co. Ltd., 1838-1958. 1958.

Division of surveys and field studies, Center for Southern Education Studies, George Peabody College for Teachers, High schools in the south: a fact book, High schools in the south: Nashville, Division of surveys and field studies, George Peabody College for Teachers. c1966.

Peabody Education Fund: A Brief Sketch of George Peabody and the Peabody Fund. 1969.

III．George Peabody の慈善寄付リスト

（寄付額は当時のもの）

ピーボディー住宅博物館のサイトによると，主要な寄付リストは以下のようである。

(http://www.georgepeabodyhousemuseum.org/gph/3_contributions.html)

Southern Education Fund, 1867	$3,384,000
Peabody Donation Fund, 1862（英国）	$2,500,000
Peabody Institute of Baltimore, Maryland, 1857	$1,400,000
Peabody Institute, Peabody, Massachusetts, 1852	$ 217,000
Peabody Museum, Harvard University, 1866	$ 150,000
Peabody Museum, Yale University, 1866	$ 150,000
Peabody Museum (now Peabody Essex Museum) Salem, Massachusetts, 1867	$ 140,000
Peabody Institute, Danvers, Massachusetts, 1856	$ 100,000
Memorial Church, Georgetown, Massachusetts, 1866	$ 75,000
Washington & Lee University, 1869	$ 60,000
Peabody Library, Georgetown, Massachusetts, 1866	$ 30,000
Phillips Academy, Andover, Massachusetts, 1866	$ 25,000
Kenyon College, Gambier, Ohio, 1866	$ 25,000
Massachusetts Historical Society, 1867	$ 20,000
Maryland Historical Society, 1866	$ 20,000
Vatican Charitable Hospital, 1868	$ 19,300
Peabody Library Association, Georgetown, D.C., 1867	$ 15,000
Newburyport Public Library, 1867	$ 15,000
Peabody Library, Thetford, Vermont, 1866	$ 10,000
Kanes Artic Expedition, 1852	$ 10,000
US Sanitary Commission, 1864	$ 10,000
Peabody High and Holten High Schools Medal Funds, 1854 & 1867	$ 4,600

Ⅳ．ジョージ・ピーボディー関連施設とホーム・ページ

メリーランド州資料館（米国）
http://www.msa.md.gov/msa/homepage/html/homepage.html
マサチューセッツ州政府サイト（米国）
http://www.msa.md.gov/msa/speccol/photos/philanthropy/html/peabody.htm
ピーボディー住宅博物館（米国）
http://www.georgepeabodyhousemuseum.org/
ピーボディー生誕の地を記念して建てられ，彼の偉大な生涯と功績を祝し，彼とピーボディー市の皮革産業の遺産を守っている。
ピーボディー歴史協会（米国）
http://www.peabodyhistorical.org/gpeabody.htm
ピーボディー・トラスト（英国）
http://www.peabody.org.uk/
ピーボディー・マサチューセッツ資料館（米国）
http://www.peabodymassarchives.org/
ジョンズ・ホプキンズ大学のピーボディー・インスティチュート
http://www.peabody.jhu.edu/1972
同　ピーボディー図書館
http://www.peabodylibrary.org/
1857年の，ボルチモア市のピーボディー・インスティチュート設立以来のピーボディーの寄付による図書館。元々は自由な公共図書館であり，講義や音楽・美術のコレクションを保有していた。今では，ジョンズ・ホプキンズ大学の一部である。1878年竣工の建物は，ボルチモアの建築家 E. G. リンドによってデザインされ，最初の副学長 N. H. モリソン博士との協働で，印象的な内装を持つ。19世紀の研究者の関心を反映し，18世紀から20世紀初頭の30万タイトルの書籍を保有，特に考古学，英国芸術と建築，アメリカ史，伝記，英米文学，ローマ言語と文学，ギリシャとラテンの古典，科学史，地理学，大地図のコレクションを含む探検と

旅行書に特色がある，と紹介されている。

イェール大学ピーボディー自然史博物館

http://www.peabody.yale.edu/

ハーバード大学ピーボディー考古学&民俗学博物館

http://www.peabody.harvard.edu/

ピーボディー・エセックス博物館

http://www.pem.org/homepage/

東京都大田区立郷土博物館が，1984年に姉妹提携を結んでいる。